

# 第22回リバーフロント研究所研究発表会

企画グループ サブリーダー 渡邊 由美

平成 26 年 9 月 5 日 (金)、日本橋社会教育会館 (東京都中央区) にて「第 22 回リバーフロント研究所研究発表会」を開催しました。

本発表会は、当研究所の河川や湖沼、海岸などの水辺に関し、健全な水循環系の再生、災害に強靱な都市の形成、川を活かしたまちづくり、自然環境の保全と利用、河川生態の保全や再生、景観形成などに関する調査研究の成果を発表し、広く活用していただくことを目的に、年 1 回「リバーフロント研究所報告」の刊行にあわせて開催しています。今年 は 22 回目の開催となり、国土交通省や自治体関係者、学識者等、120 名あまりの方々にご参加いただき、活発な意見交換がなされました。

発表会には、日本大学理工学部の岸井隆幸教授をお招きし、「水辺とまちの未来」と題してご講話いただき、その後、昨年度当研究所で実施した研究成果から次の 7 題について発表を行いました。

## ○発表内容

### 1. 水辺とまちのソーシャルデザイン

要旨：これまでに取組んできた河川を活用したまちづくりの先進事例や様々な取組みについて整理し、今後のかわまちづくり、水辺とまちのありかたの方向性についての検討。

### 2. 千曲川中流域の試験的河道掘削に関する研究

要旨：千曲川中流域において実施した高水敷掘削による外来植物 (アレチウリ、ハリエンジュ) の駆除・生育抑制、及び、在来の水辺植生の再生に関する調査・研究成果についての検討。

### 3. 柿田川におけるオオカワヂシャの生態と駆除に関する課題

要旨：オオカワヂシャの生態や駆除に関する現況についての調査により、旺盛な繁殖状況が確認され、繰り返し駆除を重ねても芽生えが見られるなど、駆除の困難さ、根絶の困難さが明らかになった。駆除に関する課題を踏まえ、区域別に目標を定め、それぞれの区域の目標に応じた駆除手法の検討。

### 4. 円山川水系県管理河川における自然再生

要旨：自然再生事業の進捗状況の把握、整備効果の検討および今後の事業実施にあたっての整備優先度に関する検討。

### 5. 豊川水系における水循環構造に関する研究

要旨：豊川流域を対象とした表流水、地下水を一体に取り扱える水循環解析モデルを構築するとともに、解析結果から水循環構造の見える化を試み、それらの特徴や人為的な水利用による水循環への影響の検討。

### 6. 夕張川等の低平地における水循環に関する研究—地域の暮らしを水循環の視点から考える—

要旨：3 次元水循環解析モデルを用いて、地域経済の発展と水循環機構の関わりを推察するとともに、身近な例として、夕張川高水敷に残る高位泥炭地において高層湿原植生の再生を行おうとする箇所での水循環機構の分析の検討。

### 7. 放射性汚染物質の減容化に伴うセシウム排出挙動実証試験

要旨：Cs134、Cs137 を含む試材を用いて窒素雰囲気下での熱分解実験を行い、実験過程での Cs134、Cs137 の気化によるシステム外への排出状況、タール水やスクラバー水への溶出状況の検討。

今回の発表内容を含めた平成 25 年度の調査研究の成果「リバーフロント研究所報告 第 25 号」は、当研究所ホームページ「リバーフロント研究所報告」(<http://www.rfc.or.jp/book3.html>) にてダウンロードが可能ですので、是非ご利用下さい。

皆様からいただいた様々なご意見を踏まえて、今後も河川に係る諸問題への調査研究等を通じて社会への貢献に取り組んでいきたいと考えております。



岸井教授のご講話



会場参加者との意見交換